ISSN 2434-8198
March,2019

# たじひのだより

松原市文化財情報誌 No.18

特集

# 松原市の新しい指定文化財

## 三宅の融通念佛宗寺院 西方寺 所蔵の仏像3躯

### 西方寺本尊
**阿弥陀如来立像**

平安時代/12世紀後半
像高89.4cm、髪際高84.0cm。
ヒノキ材、一木造、彫眼、体部漆箔、衣部古色。

### 旧豊興寺本尊
**阿弥陀如来立像**

平安時代/12世紀末
像高69.5cm、髪際高63.8cm。
ヒノキ材、一木造、彫眼、体部漆箔、衣部古色。

### 旧梅松院本尊
**十一面観音立像**

平安時代/12世紀後半
像高93.2cm、髪際高75.0cm。
針葉樹、一木造、彫眼、体部漆箔、衣部古色。

西方寺は、江戸時代に三宅村と呼ばれた集落のほぼ西端にあたる松原市三宅中５丁目にあります。

大阪市平野区の大念佛寺を総本山とする融通念佛宗のお寺で、山号を「安養山」といいます。江戸時代の延宝５年(1677)に書かれた『大念佛寺四十五代記録并末寺帳』によると、元は浄土宗であったようです。また、大正11年(1922)刊行の『大阪府全志』には、鎌倉時代末の元亨年間(1321～24)に法明が融通念仏の教えを広めるために開いた念仏勧進道場が始まりであると書かれています。

これらの記録と平安時代に彫られた仏像が残ることから、西方寺が三宅に古くからあるお寺であることが分かります。

豊興寺は、明治30年(1897)まで三宅にあった融通念佛宗のお寺で、山号を「仏徳山」といいます。現在、三宅中４丁目の跡地には豊光寺(豊興寺)地蔵尊と東集会所があります。

大阪府には河内国深江(大阪市東成区)生まれの法明が開いた道場を始まりとするお寺が多く、豊興寺もその一つです。

延宝５年(1677)までに道場からお寺に変わり、住職もいたようです。

梅松院は、三宅中４丁目の屯倉神社境内にあった真言宗の神宮寺で、山号を「菅應山」といいます。

お寺の観音堂(本地堂)には、神社に祀られている天満大自在天(菅原道真)の本地仏である十一面観音立像が祀られていました。江戸時代には、河内での西国三十三ヶ所の札所で、観音信仰の霊場として多くの人がお参りに訪れました。

明治政府の神仏分離により梅松院が明治４年(1871)に無くなると、仏像など宝物の一部が西方寺に移されました。

松原市指定有形文化財(美術工芸品 彫刻)　彫第２号

## 西方寺 木造 阿弥陀如来立像

Saihōji Temple
Standing Amida Nyorai
(Skt.Amitābha)

西方寺の本尊で、平安時代後期(12世紀後半)に造られました。像の高さは89.4cmで、頭と体幹を一本のヒノキ材から彫り出す一木造の技法で造られています。

四角く面長のお顔に小さく目鼻を表し、撫で肩の体にヒダ(衣文)が緩やかに表された衣(衲衣と偏衫)をまとっています。下半身の衣のヒダが左から右に流れる表現はより古い時代の像に見られるもので、同じ時代に作られた仏像の多くは右の写真のようにヒダがY字状に表現されています。

松原市指定有形文化財(美術工芸品 彫刻)　彫第３号

## 西方寺 木造 阿弥陀如来立像

Saihōji Temple
Standing Amida Nyorai
(Skt.Amitābha)

西方寺の客仏ですが、元は豊興寺の本尊でした。

平安時代後期から末期(12世紀末)に造られたヒノキ材一木造の仏像で、像の高さは69.5cmです。

丸みのあるお顔に小さく目鼻を表したまとまりのよい穏やかな表情です。肩幅はやや大きく、少し下半身に重心が置かれていますが、ゆったりとした体つきは同じ時代の如来像に共通したものです。衣のヒダがお腹の所だけ鎌倉時代の仏像を思わせる整った大きな起伏で表現されています。

松原市指定有形文化財(美術工芸品 彫刻)　彫第４号

## 西方寺 木造 十一面観音立像

Saihōji Temple
Standing Jūichimen Kannon
(Skt.Ekdaśamukha)

西方寺観音堂の本尊ですが、元は屯倉神社の神宮寺梅松院に祀られる本地仏(神の正体)でした。

平安時代後期(12世紀後半)の仏像で、高さは93.2cmです。針葉樹の一木造で、ふっくらとした丸いお顔に浅く目鼻を表したまとまりのよい穏やかな表情です。胸やお腹のふくらみを強調しない体にヒダが浅く表現された衣をまとうなど、この時代の特徴をよく表した像です。元は右手に錫杖を持っていたようで、江戸時代の版木にその姿が刻まれています。

たじひのだより 松原市文化財情報誌 №18 平成三十一年三月発行
【発行】松原市教育委員会 【編集】松原市教育委員会事務局 教育総務部 文化財課 〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号 電話:072-334-1550(代表) FAX:072-332-7720

## ホトケの姿をしたカミと神宮寺

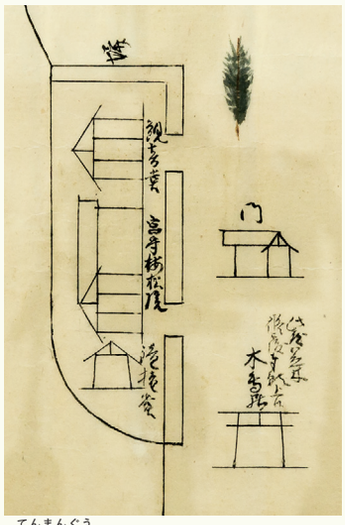
西方寺の十一面観音立像(方違十一面観世音菩薩)ですが、元は同じ三宅村にある屯倉神社に天満大自在天(菅原道真)の本地仏として祀られていました。

飛鳥時代に日本へ仏教が伝わると、仏たちは日本の神々と様々な形で融合(神仏習合)します。姿を持たない神々が仏の姿を借りて現れるという考え方や神々の正体が仏であるという考え方などが生まれます。その結果、多くの神社が境内に神宮寺と呼ばれるお寺を建てて仏像を祀り、神宮寺のお坊さん(社僧)がお寺と神社の両方を管理しました。

屯倉神社の神宮寺には、観音堂、梅松院、鐘撞堂の建物があり(現在の社務所付近)、お坊さんが神社の掃除、神様へのお供えや読経などもしていました。また、本地仏のご利益である安全祈願のお札(方違之御札)を刷って参拝者に渡すこともしていました。

明治時代になると、神社からお寺と仏像を分ける神仏分離が行われたため、昔から観音への信仰が深い融通念佛宗の村人達のお寺である西方寺に仏像などが移されました。

現在も三宅詠歌講の人々が毎月ご詠歌やお経をあげており、信仰は今も続いています。



「天満宮境内絵図」(部分拡大)
天明3年(1783)/妻屋家文書(市寄託資料)
屯倉神社の社殿修復のために提出された絵図。上を東にして描いている。

## 融通念佛宗の歴史

融通念佛宗は、大阪市平野区に総本山大念佛寺を置き近畿圏に多くのお寺がある仏教教団です。仲間でともに念仏を合唱することを大事とする融通念仏信仰が基で、良忍(1073～1132)が平安時代の終わりに開いたとされます。彼の教えは一時途絶えますが、鎌倉時代に法明(1279～1349)により再興されました。

融通念仏を信仰する集団は、江戸時代より前は決まった場所にお寺を建てずに持ち回りで仲間の自宅などに本尊の掛軸(阿弥陀如来が迎えに来る様子の描かれた軸)を置き、本拠の道場としていました(挽道場)。

この集団は、江戸時代に幕府より融通念佛宗として認められ、村などの小さい集団ごとにお寺を建てました。その際、掛軸の本尊だけでなく元の本拠に本尊として安置されていた阿弥陀・地蔵・観音・薬師などの仏像も一緒にお祀りするお寺もありました。

左:良忍上人倚像(像高37.4cm)
右:法明上人倚像(像高37.2cm)
江戸時代/西方寺蔵/寄木造 彩色 玉眼

法明上人倚像底裏面墨書銘
「宝暦七丑年正月吉日/大佛師/山口左膳」

**【西方寺へのアクセス】**
近鉄南大阪線河内松原駅下車。北方向へ1.9km。徒歩約24分。
※駐車場はありません。
見学については、事前に文化財課にお問い合わせください(☎072-334-1550)。

西方寺外観(右:山門、左:観音堂)